

天文教育フォーラム報告

「いま、学校では天文学をどう教えているか？」

上記テーマに関するフォーラムが、春季年会行事の1つとして、1995年3月25日13時～14時に開かれ、80名ほどの参加者が集まり盛会に行われました。

最初に基調講演が2組行われました。群馬県館林市立第四中学校教諭の高柳悦夫氏は、「天文が現場でどう教えられているか」と題して中学校での現状を報告しました。文部省初等中等教育局の富士顛士氏、宇野正宏氏、山縣朋彦は「学習指導要領について」と「理科教育についての日本物理学会・日本化学会の取り組みについて」という2つの内容について報告しました。

次に、教育関係者は研究者に何を求めているのか、また研究者は教育現場にどう関わっていけるのかについて9名の方からコメントをいただきました。水野孝雄氏（東京学芸大学）は、天文教育普及研究会で今年2月に文部省に提出した「要望書」について紹介し、日本天文学会にも協力を要請しました。

大金要次郎氏（都立国分寺高校）は、研究者による普及書等の執筆には誤った記述、不適切な説明などが多く、そのような誤りは教育現場で拡大再生産され、影響が大きい事を指摘し、改善を求めました。海部宣男氏（国立天文台）は、文部省と研究者と教育現場との間に短いタイムスケジュールで対応できるようなルートが必要であると述べ、学会はそのために努力すべきであると述べました。祖父江義明（東大理）は、日本では大学レベルのきちんとした教科書が出回っていないことを指摘し、小・中・高・大学それぞれのレベルでのきちんとした天文学の教科書を作ろうと呼びかけました。

掃部条二氏（保善高校）は高校で教科書を使う立場から、受験対応のみの既製の教科書ではなく、

生徒のレベルにあった分かりやすく面白い記述の教科書を書いてほしいと要望しました。それに対し、教科書執筆者の江里口良治氏（東大教養）と吉川真氏（通総研鹿島）は、教科書会社が指導要領や検定制度によって束縛を受けている状況や、受験向きの教科書がよく売れている現状を紹介し、教育現場や研究者の協力を呼びかけました。

次に、天文学会での教育普及活動への取り組みについて理事長の内田豊氏は、若者の理科離れ傾向が進むなか、宇宙への関心は高いことを取り上げ、今後、初等中等教育についても天文学会として積極的に寄与していくことを表明しました。また、小杉健郎氏（国立天文台）は、理事会では今回のこの盛り上がった気運を大切に、物理学会等の活動に早く追いつけるように学会として取り組むことが討議されていることを紹介し、休眠状態の「天文学で何を教えるべきか」WGの再出発をご自身が担当されることを表明しました。

続いてフォーラム実行委員から次の4点を提案しました。

- ・研究と教育とは不可分である。

研究者による教育の範疇に初等中等教育も含めて考えよう。

- ・普及書・啓蒙書と専門書の間を埋める本の執筆が望まれる。

日本の研究者も大学レベルの教科書を書こう。

- ・学習指導要領、教科書が教育現場に与える影響は多大である。

チャンスがあったら積極的に参加してほしい。また、その際には影響力の大きさを十分に認識して責任をもって取組もう。

- ・天文学会WGの見直しと再出発が望まれる。

WGでは、他学会との協調を含めた積極的な活動が望まれる。

討論では、教育委員会・社会教育施設・教科書会社・地学関係他学会等との協力も必要であることが提案されました。

討論の時間が十分に取れず、参加者の皆さんにとっては言い足りなかったことと思います。実行委員の不手際をお詫びいたします。

(フォーラム実行委員 縣 秀彦, 鈴木文二, 祖父江義明, 山縣朋彦)

寄贈図書リスト

知られざるジャパノロジストローエルの生涯一, 宮崎 正明, 丸善, 読み物, 新書版, 245 p, 680 円

岩波講座・現代の物理学「宇宙物理」, 佐藤文隆, 岩波書店, 教科書, A5判, 272 p, 3,200 円
宇宙の発見, ジェームス・コーネル編, 並木雅俊訳, 丸善, 解説書, B6, 317 p, 1,800 円

月報だより

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1)所属部門・所属講座, (2)勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1)着任時期, (2)任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1)提出先, (2)問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

A. 国立天文台 COE 研究員及び研究員公募

今年度より国立天文台に非常勤講師の身分・給与による「COE 研究員」の制度が新設されました (定員7名)。これに伴い, 従来の「国立天文台研究員」については「研究員」と呼ぶこととし, 待遇・定員はそのままとします。今年度は「COE 研究員」の初年度にあたるため, 下記の通り両研究員について並行して公募を行います。なお両研究員は独立した制度ですから, 併願や他制度への移行は差し支えありません。

A-1. COE 研究員公募

1. 研究者7名
- 2-4. 以下に募集する各分野, 人員, 職務内容及び勤務地を掲げる。

宇宙電波分野 (3名程度): ミリ波干渉計用の超広帯域相関器の開発, 45m ミリ波望遠鏡用の大型マルチビーム超伝導受信機の開発, 45m 望遠鏡と干渉計を結ぶレインボウ計画などミリ波・サブミリ波観測性能の高度化プロジェクトに従事し, 電波天文分野における先進的な観測研究を推進する。勤務地は野辺山。

VLBI 分野 (1名程度): VSOP, 国内 VLBI 等のプロジェクトに従事し, 活動銀河核・星形成領域や星周領域のメーザー源などの観測・研究を推進する。勤務

地は主として三鷹。

すばるプロジェクト (1名程度): 建設中の大型光学赤外線望遠鏡「すばる」のプロジェクトに従事し, 各種の技術開発・試験・観測・研究を推進する。勤務地は当面は三鷹あるいは岡山, 将来はハワイもあり得る。

一般分野 (2名程度): 以下の分野においてそれぞれのプロジェクトに従事しつつ研究を推進する

(カッコ内はプロジェクト)。

データ解析計算センター (地上観測データを中心とした総合的天文データベースの構築); 勤務地は三鷹。

理論天文学 (大規模天文シミュレーション等); 勤務地は三鷹。

太陽物理学 (「ようこう」衛星, 太陽フレア望遠鏡等); 勤務地は三鷹。

位置天文・天体力学 (重力レンズによる位置天文, 重力波関連の技術開発); 勤務地は三鷹。

地球回転 (地上 VLBI 統一計画, 月面 VLBI 等); 勤務地は水沢。

太陽電波 (電波ヘリオグラフ); 勤務地は野辺山。

5. (1)決定後可能な限り早い時期
(2)原則として2年
(特別の事情ある時は1年延長を可とする)
6. 博士の学位を取得または取得見込みのもので, 平成7年4月1日現在35歳未満のもの
7. 履歴書, 研究歴・研究業績概略, 論文リスト (共著の論文については本人の役割を明記のこと), 主要論文別刷, 研究計画 (希望の分野・プロジェクトを明記のこと), 推薦書 (あれば)。
8. 提出期限: 6月30日 (当日消印有効)
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 小平桂一
(2)海部宣男
(国立天文台・三鷹, TEL 0422-34-3610)
10. 封筒に「COE 研究員応募書類」と朱書のこと。別に公募する「国立天文台研究員」に, 併せて応募することは差し支えない。
11. その他: 非常勤講師としての待遇, 給与 (月額30万